

F SUNTORY HALL
Festival in autumn

一部改訂
Nuova Versione

マウリツィオ・ポリーニ
ーポリーニ・パースペクティヴ2012ー

Maurizio Pollini

– Pollini Perspectives 2012 –

2012年

10/23(火)19:00

サントリーホール

Tuesday, October 23, 2012 at 7 p.m. Suntory Hall

11/2(金)19:00

サントリーホール

Friday, November 2, 2012 at 7 p.m. Suntory Hall

11/7(水)19:00

サントリーホール

Wednesday, November 7, 2012 at 7 p.m. Suntory Hall

11/13(火)19:00

サントリーホール

Tuesday, November 13, 2012 at 7 p.m. Suntory Hall

[各日共] S¥25,000 A¥21,000 B¥17,000
C¥12,000 若葉シート¥3,000 プラチナ券¥30,000

[室内楽公演]

2012年

10/24(水)19:00

サントリーホール ブルーローズ

Wednesday, October 24, 2012 at 7 p.m. Suntory Hall Blue Rose

11/14(水)19:00

サントリーホール ブルーローズ

Wednesday, November 14, 2012 at 7 p.m. Suntory Hall Blue Rose

[両日共] 全指定席¥6,000



©Cosimo Filippini

KAJIMOTO





©Luigi Ribicki

1803年の夏、ベートーヴェンは5オクターブ半の音域をもつエラール社のピアノを手に入れた。この楽器の深い響きを触媒にして、「第21番」「第23番」のように強弱の対比を構造の軸にした華麗なソナタが書かれることになる。一方、イタリアのミラノに生まれ、左翼的な音楽作品やオペラの分野で知られるジャコモ・マンゾーニ(1932-)にとつての「エラール」は、詩人の言葉に違いない。この近作でも、ロシアのフレーヴニコフ、オーストリアのトラークル、イタリアのザンゾットといった詩人のテキストが、マンゾーニ作品に独特のRumore、すなわちノイズを緩やかに拡張してゆくことになるはず。さて、ポーリーニが提案しているのは、マンゾーニという触媒を通してベートーヴェンを聴くことなのだが、その結果は果たして？

©Luigi Ribicki

©Luigi Ribicki

©Luigi Ribicki

他の日が「室内楽+ピアノ独奏」というプログラムなのに対して、この日のポーリーニはたったひとり。しかも、ドイツのケルンに生まれ、戦後の前衛を一貫してリードしてきたカールハインツ・シュトックハウゼン(1928-2007)の「ピアノ曲X」とベートーヴェンの「告別」ほかという、実にハードなプログラムだ。なにしろシュトックハウゼン作品は、両手の肘まで使う密集音塊が乱舞する大曲。ポーリーニはこれを若い頃からレパートリーの一つにはしているけれども、失礼ながら老齢にさしかかった現在では決して容易な曲ではないはず。一方、ベートーヴェンの4曲も一筋縄ではいかない。「告別」を除けば比較的小規模で簡素なソナタだが、それだけに終楽章におかれたロンドには各段の軽やかさが求められる。大暴れと洒脱、まったく対照的な楽曲をどう一夜で実現するかが見所だ。



©Maurizio Pollini

【ベートーヴェン——マンゾーニ】
Beethoven – Manzoni

10/23 (火) 19:00 サントリーホール

Tuesday, October 23, 2012 at 7 p.m. Suntory Hall

マンゾーニ:
Manzoni:
Il rumore del tempo
(ヴァイオラ、クラリネット、打楽器、ソプラノ、ピアノのための)
【ルツェルン・フェスティバル委嘱作品、日本初演】
Il rumore del tempo for viola, clarinet, percussion, soprano and piano

ベートーヴェン:
Beethoven:
ピアノ・ソナタ第21番 八長調 op.53 「ワルトシュタイン」
Piano Sonata No.21 in C major op.53 “Waldstein”
ピアノ・ソナタ第22番 へ長調 op.54
Piano Sonata No.22 in F major op.54
ピアノ・ソナタ第23番 へ短調 op.57 「熱情」
Piano Sonata No.23 in F minor op.57 “Appassionata”

マウリツィオ・ポーリーニ(ピアノ)・・・(ベートーヴェン・ソナタ)
Maurizio Pollini, *Piano* ※Beethoven
ニコラス・オッジ(ピアノ)・・・(*マンゾーニ作品)
Nicolas Hodges, *Piano* ※Manzoni
クリストフ・デジャルダン(ヴィオラ)
Christophe Desjardins, *Viola*
アラン・ダミアン(クラリネット)
Alain Damiens, *Clarinet*
ダニエル・チャンポーリーニ(打楽器)
Daniel Ciampolini, *Percussion*
チョー・ジョー(ソプラノ)
Joo Cho, *Soprano*

*マンゾーニ作品の演奏ピアノリストを、ニコラス・オッジに変更させていただきます。

©Cosimo Filippini

【ベートーヴェン——シュトックハウゼン】
Beethoven – Stockhausen

11/2 (金) 19:00 サントリーホール

Friday, November 2, 2012 at 7 p.m. Suntory Hall

シュトックハウゼン:
Stockhausen:
ピアノ曲Ⅶ
Klavierstück Ⅶ
ピアノ曲Ⅸ
Klavierstück Ⅸ

ベートーヴェン:
Beethoven:
ピアノ・ソナタ第24番 嬰へ長調 op.78 「テレーゼ」
Piano Sonata No.24 in F-sharp major op.78
ピアノ・ソナタ第25番 ト長調 op.79
Piano Sonata No.25 in G major op.79
ピアノ・ソナタ第26番 変ホ長調 op.81a 「告別」
Piano Sonata No.26 in E-flat major op.81a “Das Lebewuhl”
ピアノ・ソナタ第27番 ホ短調 op.90
Piano Sonata No.27 in E minor op.90

マウリツィオ・ポーリーニ(ピアノ)
Maurizio Pollini, *Piano*

*シュトックハウゼン:ピアノ曲Xを上記2曲に変更させていただきます。

©Cosimo Filippini

「ポーリーニ・パースペクティヴ」に寄せて —— キアズマから生まれる革命の夢 ——

文：沼野 雄司(音楽評論家)

そのキャリアの初期から、ポーリーニは古典的な音楽と現代音楽を同じ演奏会で取り上げてきた。しかも彼が選ぶのは常に、ノーノ、ブーレーズ、シュトックハウゼンに代表される、20世紀前衛の粋といえる作曲家たちなのだ。おそらくはショパンやベートーヴェンを聴きにきた聴衆に対して、彼は実に根気よく、こうした厳しい響きを提供してきた。

今回はベートーヴェンとのカップリングで、4人の現代作曲家の作品がとりあげられる。イタリアのマンゾーニとシャリーノ、そしてドイツのシュトックハウゼンとラッヘンマン。形は多少異なれども、彼ら4人に共通するのは現代の音楽と社会への鋭い批判といってよい。その意味で、ポーリーニという存在の核には間違いなく、広い意味でのイタリア左翼文化が横たわっている。

そして、ベートーヴェンもまた革命の申し子であったことは論をまたない。であるならばポーリーニのパースペクティヴとは、18世紀から現代を貫通する革命にこそあると考えられよう。古典だけでなく、前衛だけでなく、敢えて両者を並置し、そこで生じるキアズマのもとに革命を夢見ること。この無謀な試みに立ち会わなければいけない。



©Cosimo Filippini

室内楽公演

★室内楽公演は、当初よりマウリツィオ・ポーリーニの出演は予定されておりません。

10/24 (水) 19:00 サントリーホールブルーローズ

Wednesday, October 24, 2012 at 7 p.m. Suntory Hall Blue Rose

マンゾーニ:
Manzoni:
Entrata a tre ー クラリネット、打楽器とヴィオラのための 【世界初演】
Entrata a tre for clarinet, percussion and viola
An die Musik ー 声楽とフルートのための 【日本初演】
An die Musik for voice and flute
Percorso GG ー クラリネットとCDのための 【日本初演】
Percorso GG for clarinet and CD
Voci ー 弦楽四重奏のための 【日本初演】
Voci for string quartet

ラッヘンマン:
Lachenmann:
Trio fluido ー クラリネット、ヴィオラ、打楽器のための
Trio fluido for clarinet, viola and percussion
マンゾーニ:
Manzoni:
Oltre la Sogliaー 声楽と弦楽四重奏のための 【日本初演】
Oltre la soglia for voice and string quartet

クリストフ・デジャルダン(ヴィオラ)
Christophe Desjardins, *Viola*
アラン・ダミアン(クラリネット)
Alain Damiens, *Clarinet*
ダニエル・チャンポーリーニ(打楽器)
Daniel Ciampolini, *Percussion*
チョー・ジョー(ソプラノ)
Joo Cho, *Soprano*

工藤 重典(フルート)
Shigenori Kudo, *Flute*
亀井庸州 多井智紀 辺見康孝 安田貴裕(弦楽四重奏)
Yoshu Kamei,Tomoki Tai,Yasutaka Hemmi,Takahiro Yasuda, *String Quartet*
一部、曲目の追加 および曲順の変更がございます。

©Cosimo Filippini

【ベートーヴェン——ラッヘンマン】
Beethoven – Lachenmann

11/7 (水) 19:00 サントリーホール

Wednesday, November 7, 2012 at 7 p.m. Suntory Hall

ラッヘンマン:
Lachenmann:
弦楽四重奏曲第3番 「グリド(叫び)」
String Quartet No.3 “Grido”

ベートーヴェン:
Beethoven:
ピアノ・ソナタ第28番 イ長調 op.101
Piano Sonata No.28 in A major op.101
ピアノ・ソナタ第29番 変ロ長調 op.106
「ハンマークラヴィーア」
Piano Sonata No.29 in B-flat major op.106 “Hammerklavier”

ドイツのシュトゥットガルト生まれのヘルムート・ラッヘンマン(1935-)のトレードマークとなっているのが、様々な特殊奏法。時にはほとんどノイズで構成されているその楽曲は、これまで常に物議をかもしてきた。しかし、近年の彼の作品は、むしろ一種の「まるみ」を感じさせることが多い。確かに細部は相変わらずの刺激に満ちているのだが、全体としては豊かな音響の束が、たおやかに運動するといった風なのだ。「弦楽四重奏曲第3番 グリド」(2011)はまさにその典型。さて、ここに置かれたベートーヴェンのソナタは、ラッヘンマンの二つの側面をそれぞれ拡大したものと違ってよいかもしれない。時には力ずくで聴き手に何事かを突き付けてやまない「29番」、そしてシューマンを予感させる穏やかな抒情が支配する「28番」という具合に・・・。

マウリツィオ・ポーリーニ(ピアノ)
Maurizio Pollini, *Piano*
ジャック四重奏団(弦楽四重奏)
Jack Quartet, *String Quartet*

©Markus Kirchgessner

【ベートーヴェン——シャリーノ】
Beethoven – Sciarrino

11/13 (火) 19:00 サントリーホール

Tuesday, November 13, 2012 at 7 p.m. Suntory Hall

シャリーノ:
Sciarrino:
謝肉祭 第10番「震えるままに」
Carnaval No.10 Lasciar vibrare
第11番「雨の部屋」
No.11 Stanze della pioggia
第12番「弦のない琴」
No.12 Liuto senza corde
【ルツェルン・フェスティバル委嘱作品、日本初演】

ベートーヴェン:
Beethoven:
ピアノ・ソナタ第30番 ホ長調 op.109
Piano Sonata No.30 in E major op.109
ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 op.110
Piano Sonata No.31 in A-flat major op.110
ピアノ・ソナタ第32番 八短調 op.111
Piano Sonata No.32 in C minor op.111

マウリツィオ・ポーリーニ(ピアノ)・・・(ベートーヴェン・ソナタ)
Maurizio Pollini, *Piano* ※Beethoven
ダニエレ・ポーリーニ(ピアノ)・・・(*シャリーノ作品)
Daniele Pollini, *Piano* ※Sciarrino
クラングフォーラム・ウィーン(室内アンサンブル)
Klangforum Wien, *Chamber Ensemble*
シュトゥットガルト・ニュー・ヴォーカル・ソロイスト
(声楽アンサンブル)

Neue Vocalsolisten Stuttgart, *Vocal Ensemble*
ティート・チェッケリーニ(指揮)
Tito Ceccherini, *Conductor*

*シャリーノ作品の演奏ピアノリストを、ダニエレ・ポーリーニに変更させていただきます。



©Markus Kirchgessner

ドイツのシュトゥットガルト生まれのヘルムート・ラッヘンマン(1935-)のトレードマークとなっているのが、様々な特殊奏法。時にはほとんどノイズで構成されているその楽曲は、これまで常に物議をかもしてきた。しかし、近年の彼の作品は、むしろ一種の「まるみ」を感じさせることが多い。確かに細部は相変わらずの刺激に満ちているのだが、全体としては豊かな音響の束が、たおやかに運動するといった風なのだ。「弦楽四重奏曲第3番 グリド」(2011)はまさにその典型。さて、ここに置かれたベートーヴェンのソナタは、ラッヘンマンの二つの側面をそれぞれ拡大したものと違ってよいかもしれない。時には力ずくで聴き手に何事かを突き付けてやまない「29番」、そしてシューマンを予感させる穏やかな抒情が支配する「28番」という具合に・・・。

©Markus Kirchgessner

©Markus Kirchgessner

©Markus Kirchgessner

シチリア生まれの音色の魔術師サルヴァトーレ・シャリーノ(1947-)と後期ベートーヴェン。不思議な取り合わせにも見えるが、現代の MADRIGAL を目指したという「謝肉祭」が、同時にシューマン作品へのねじれたオマージュであることを知れば、3つのソナタへの道筋がおぼろげに見えてこよう。ちなみに、ベートーヴェンの最後のソナタが書かれたのは1822年、すなわち「第九」や後期の弦楽四重奏よりも前であることに注意したい。この時期の作曲家は、決して死に向かう諦念にとらわれているのではなく、むしろはじまりつつある晩年に敏感に察知しながら、最後の大きな飛躍へと身を投じようとしている。この意味においても、65歳のシャリーノと52歳のベートーヴェンは格好の比較対象となるだろう。そして70歳を迎えたポーリーニもまた・・・。



©Tito Ceccherini



マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ) Maurizio Pollini, Piano

1942年ミラノ生まれ。1960年ショパン国際コンクールに優勝。以後比類ない明晰なピアノズムをもって世界最高の指揮者・オーケストラとの共演や音楽祭への出演、すべての主要音楽都市でのリサイタル、名誉ある賞の受賞など現代最高のピアニストの名に相応しい活躍を続けている。また現代音楽へも強い思いを持ち、1995、99年にはザルツブルク音楽祭で「Progetto Pollini」、99年から2001年にかけてはカーネギーホールで「Perspectives: Maurizio Pollini」、2002年には「ポリーニ・プロジェクト2002in東京」(その後パリ、ローマでも)などの挑戦的プロジェクトを行っている。昨年からルツェルン・フェスティバルを皮切りに「ポリーニ・パースペクティブ」を開始。東京のほか、ベルリンやパリでも行われる。

©Cosimo Filippini

ポリーニが選んだ共演者たち



クラングフォーラム・ウィーン Klangforum Wien

24人のメンバーから構成され、ベアート・フラーが創設。20世紀音楽で演奏機会のない作品の復活を目指しており、欧米や日本のコンサートホール、オペラハウスで2000を超える初演や、70以上のCDは音楽史に新風を吹き込んでいる。カンブルラン、ツェルハ、フラーの3人が名誉会員。

©Lukas Beck

ジャック四重奏団 Jack Quartet

イーストマン音楽学校時代の仲間4人で結成。当時からアルティマティク四重奏団やクロノス・カルテット、アンサンブル・アンテルコンタンポランのメンバーに師事し、ラッペンマン、細川俊夫、リームら現代作曲家の委嘱や新作演奏に重点を置く。カーネギーホール、ルツェルン・フェスティバルで演奏し、批評家から絶賛。

©Stephen Poff

クリストフ・デジャールダン (ヴィオラ) Christophe Desjardins, Viola

コンサートへボウ管などと共演するソリストである一方、アンサンブル・アンテルコンタンポランのメンバーにも加わり、現代作曲家とのコラボレーションに力を入れている。ブーレーズ、ヴィトマン、ストロツパらの新作初演を行い、ペリオ「セクエンツァVI」、マヌリ「バルティータI」などのCDはディアパゾン・ドールなど数々の賞を受賞。

©Jean Radel

チョー・ジョー (ソプラノ) Joo Cho, Soprano

ヴェルディ音楽院を最優秀で卒業。シュライアーやドイチュにも師事し、数々のコンクールで優勝している。《魔笛》のパミーナやマラー「第4交響曲」などのほか、シェンベルク「月に憑かれたピエロ」も歌い、マンゾーニ「ネル・トゥオ・シレンツィオ」の世界初演など、現代音楽にも力を入れている。



亀井庸州 多井智紀 辺見康孝 安田貴裕 (弦楽四重奏)

Yoshu Kamei, Tomoki Tai, Yasutaka Hemmi, Takahiro Yasuda, String Quartet

「コンポージアム2009ラッペンマン」等で多数共演。メンバー各々が同世代のみならず、松平頼暁、湯浅護二、池辺晋一郎、細川俊夫、三輪眞弘らと世代を越えた共同活動を続け、数百曲の世界初演に携わっている他、フェルドマン、ドナトニーなど多くの日本初演にも携わっている。

ニコラス・オッジ (ピアノ) Nicolas Hodges, Piano

特に現代音楽の優れた名手として知られるピアニスト。バレンボイム、レヴァイン、ナッセンらの指揮でシカゴ響、ベルリン・フィル、BBC響などと共演。カーネギーホールやIRCAM、ルツェルン・フェスティバルやウィーン・モデルンでリサイタルも開いた。カーターやパートウィッスル、アダマスなどの作品をレコーディングしていて評価が高い。



シュトゥットガルト・ニュー・ヴォーカル・ソリストズ Neue Vocalsolisten Stuttgart

1984年に現代声楽作品を専門に演奏するアンサンブルとして創立。7人で構成され、コロラトゥーラ・ソプラノからカウンターテナー、バス・プロフォンドに及ぶ広音域を誇る。作曲家たちと協働し、常に新しいサウンド、テクニクを探求している。毎年世界の檜舞台で20もの新作を初演。

©Lukas Beck

ティート・チェツケリーニ (指揮) Tito Ceccherini, Conductor

1973年ミラノ生まれ。BBC響やヴェルディ響、パリ・オペラ座などに客演するほか、現代音楽の支持者でエトヴェシュにも師事している。自ら室内アンサンブル「リソニヤンツェ」を設立、数多くの作曲家の新作初演や録音も行っている。シャリノー「ローエングリン」のCDは多くの賞を受賞。

©Stefano Bottesi

アラン・ダミアン (クラリネット) Alain Damiens, Clarinet

パリ音楽院を首席で卒業し、1976年からアンサンブル・アンテルコンタンポランのメンバー。ブーレーズ「二重の影の対話」やカーターのクラリネット協奏曲のほか、シュツクハウゼンやドナトニーらの作品も初演している。「二重の影の対話」は1985年ブーレーズ・フェスティバル、2005年ポリーニ・プロジェクトIIにおいて東京でも妙技を披露。

©Stefano Bottesi

ダニエル・チャンポリーニ (打楽器) Daniel Ciampolini, Percussion

パリ音楽院で学んだ後、ボストンのパークリー音楽大学でも学ぶ。19歳でブーレーズにアンサンブル・アンテルコンタンポランのソリストに抜擢され、以来世界の現代作曲家たちとのコラボレーションは数多い。ブーレーズの「シュル・アンシース」や「レボン」の初演、録音に参加。作曲家としても活動している。



工藤 重典 (フルート) Shigenori Kudo, Flute

J.P.ランパルらに師事し、パリ音楽院を一等賞で卒業。国内外の数多くのオーケストラと共演、レコーディングも活発に行うわが国を代表するフルート奏者。サイトウ・キネン・オーケストラや水戸室内管の首席奏者も務めた。現在パリ・エコール・ノルマルと東京音楽大学教授。上野学園大学客員教授。

©武藤 章

ダニエレ・ポリーニ (ピアノ) Daniele Pollini, Piano

1978年ベルリンに生まれ、イモラの国際アカデミーなどでF.スカラに師事。1997年ベアザロのロッシニ・フェスティバルでデビューし、ザルツブルク音楽祭やルーラー・フェスティバルなどに出演、フィレンツェでメータと共演するなど活躍を広げる。RAI響とシャリノーの新作を演奏するなど、現代曲の演奏で評価が高い。

©Cosimo Filippini 2009

チケットのお申込み

カジモト・イープラス 0570-06-9960

※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます。ホームページからお申込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。

検索 <http://kajimotoeplus.com/>

0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない場合がございます。NTT加入電話、公衆電話などをご利用願います。

twitter @kajimoto_News

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB <http://suntory.jp/HALL/>

チケットぴあ プリセール(先着順先行): 7/23(月)10:00~7/28(土)23:59 <http://pia.jp/t/0570-02-9999>(自動応答 24時間)Pコード: 165-895(室内楽公演以外) 165-897(室内楽公演)
e+(イープラス) <http://eplus.jp/>
ローソンチケット 0570-000-407 Lコード: 32224(室内楽公演以外) 32226(室内楽公演)
プレリクエスト先行: 7/23(月)10:00~7/27(金)23:59 <http://l-tike.com/pollini>
CNプレイガイド 0570-08-9990

カジモト・イープラス会員限定先行受付: 7/18(水)12:00~7/22(日)18:00
先行受付専用番号 TEL: 0570-06-9969 [10:00~18:00(初日のみ12:00より受付)]
サントリーホール・メンバーズクラブ限定先行受付 TEL: 0570-55-0017 [7/18(水)12:00~7/22(日)18:00]

一般発売:
7/29(日)10:00~



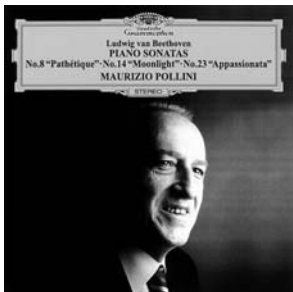
便利なケータイサイトもぜひご利用ください。
iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ
対応チケットもご購入いただけます。
カジモト・イープラス

KAJIMOTO 〒104-0061 東京都中央区銀座8-6-25 河北ビル TEL: 03-3574-0550 <http://www.kajimotomusic.com/>

マウリツィオ・ポリーニ

Maurizio Pollini

洗練の極み。
精緻に描く、ポリーニのベートーヴェン。



ベートーヴェン:

《悲愴》《月光》《熱情》

ピアノ・ソナタ 第8番《悲愴》

第14番《月光》、第23番《熱情》

録音: 2003年6月、1991年5-6月、2002年6月

SHM-CD: UCCG-2089

定価 ¥1,800(税抜価格 ¥1,714)



ベートーヴェン:

《テンペスト》《ワルトシュタイン》《告別》、他

ピアノ・ソナタ 第17番《テンペスト》

第21番《ワルトシュタイン》、第25番、第26番《告別》

録音: 1988年6月 SHM-CD: UCCG-2090 定価 ¥1,800(税抜価格 ¥1,714)

ベートーヴェン: 後期ピアノ・ソナタ集

第28番、第29番《ハンマークラヴィーア》、第30番、第31番、第32番

録音: 1976年9月、1977年1月、1975年6月

CD: UCCG-4655/6(2枚組) 定価 ¥2,600(税抜価格 ¥2,476)

発売・販売元: ユニバーサル ミュージック

ユニバーサル ミュージックのホームページで商品が購入できるようになりました! (一部商品を除く)
<http://www.universal-music.co.jp/classics/>